

牧野フライス 製作所

2026/8/25



工作機械の受注が好調

2026年7月分 受注速報

(次回の揭示は2026年9月9日(水)15時以降の予定です)

(単位:百万円・%)

	26/7月	前月比	前年同月比	2026年累計	前年同期比
受注総額	193,102	94.9	150.4	1,248,243	137.8
うち内需	53,238	91.8	150.2	326,134	126.5
うち外需	139,864	96.2	150.5	922,109	142.3

推移

日本 工作機械受注(前年比)

<https://jp.investing.com/economic-calendar/machine-tool-orders-200>

図解 即 戦力

豊富な図解と丁寧な解説で、
知識0でもわかりやすい！

工作機械 業界

の

しくみとビジネスが
しっかりわかる
教科書

永井知美
山口智也

Tomomi Nagai
Tomoya Yamaguchi

これ
1冊で

NC工作機械／ターニングセンタ／マシニングセンタ／旋盤
ボール盤／フライス盤／中ぐり盤／研削盤／レーザ加工機
放電加工機／仕上げ機械／歯切り盤／半導体製造装置
板金機械／プレス機械／ブロー／ロータリーエンコーダ

業界志望者
必携！

技術評論社

業界の
必須知識
を

工作機械メーカーの主力製品・企業戦略から
具体的な業務内容・労働環境、市場動向まで

まるごと理解！！

工作機械とは？



機械を作る マザーマシン

金属などの素材を削る、穴をあけるといった加工を行い、様々な製品や機械の部品を作り出す「すべての機械の母」となる存在。極めて高い精度が要求されます。

01

マシニングセンタ

自動で工具を交換（ATC）し、フライス削り、穴あけ、ねじ立てなどの異なる加工を1台で連続して行える高能率な複合加工機。

02

NC旋盤

材料となる円柱状の金属を高速回転させ、そこにバイトと呼ばれる刃物を当てて削る「旋削加工」を数値制御（NC）で行う機械。

—

日本の工作機械を支える高度な技術

牧野フライス製作所などの主要メーカーが誇る超精密な金型加工や、5軸制御マシニングセンタは、世界最高峰の技術を要します。航空宇宙、自動車、半導体製造装置、医療機器など、ミクロン単位の精度が求められるあらゆる最先端ものづくりの現場を支えています。

牧野フライス製作所の特徴



クオリティ・ファースト

「品質第一」を掲げる妥協なきモノづくり精神。高精度を極限まで追求した設計・開発体制が、世界のハイエンド市場における絶大な信頼性の源泉となっています。

収益の柱

マシニングセンタの総合大手

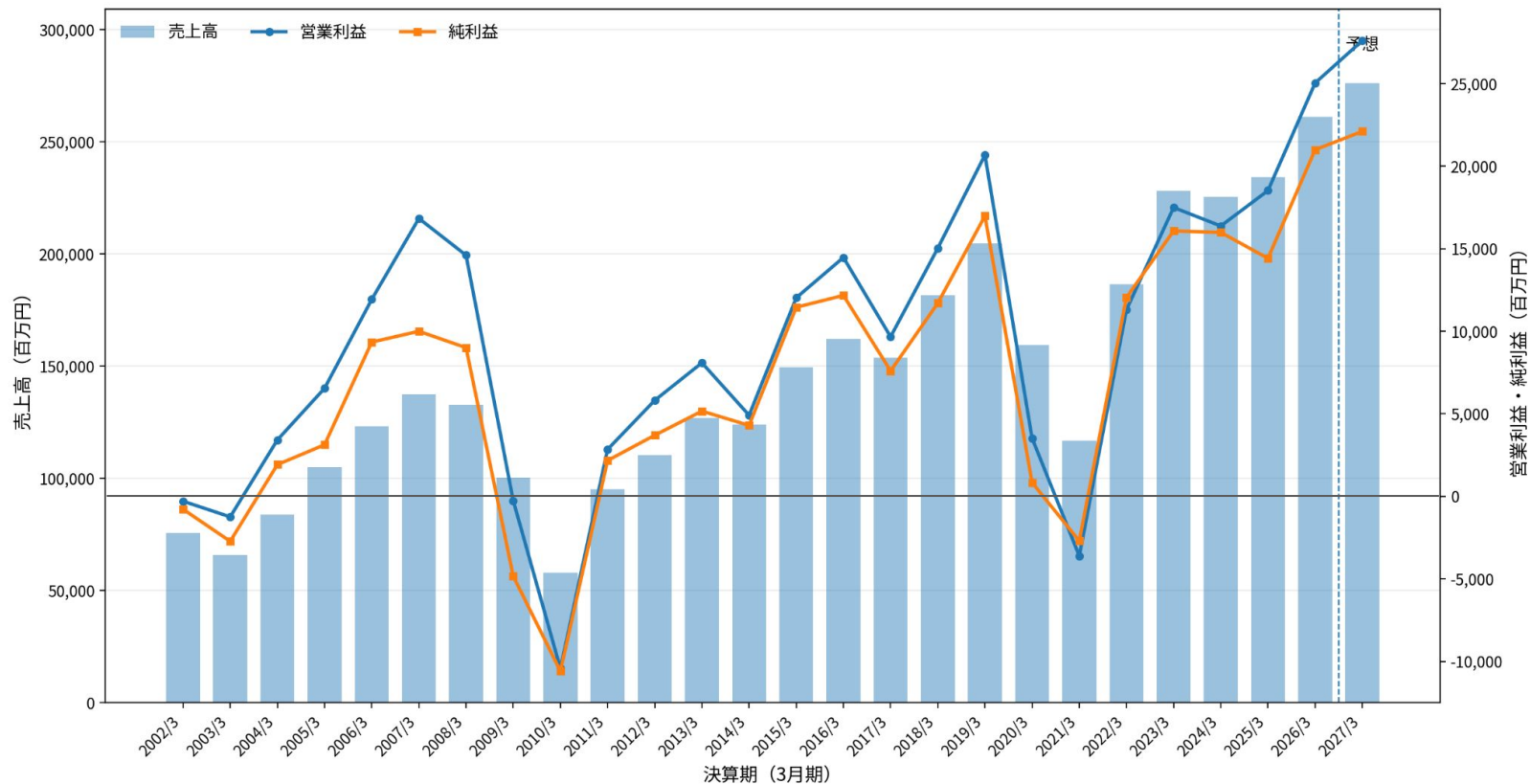
自動工具交換機能を備え、複雑な金属切削加工を一台で完結させるマシニングセンタ(MC)を主力事業として展開。業界最高水準の剛性と精度を誇り、総合工作機械メーカーの世界的地位を確立しています。

強み・ターゲット

最先端産業向けハイエンド機

- **極限の精度が求められる領域**: 自動車のエンジン金型、航空機胴体・主翼の超大型部品、半導体製造装置関連パーツなど、最高峰の製品群に特化。
- **圧倒的なソリューション力**: 5軸制御技術をはじめとする高度な数値制御(NC)技術で、難削材の加工や複雑形状の創出を実現。

牧野フライス製作所 業績推移



出所：ご提示画像をもとに作成。2027/3期は会社予想。

複数の企業が買収を提案

時期	主体	状況	結末・論点
2024年末 ~ 2025年5月	<u>ニデック</u>	非要請の TOBを提示	2025年5月8日に撤回 「継続が著しく経済的に不合理」と判断
2026年4月	MBK Partners	牧野側と協議していた買収案	日本政府が外為法に基づき中止を勧告 高性能工作機械の軍民両用性・技術流出懸念が理由
2026年4月 ~ 7月	NSSK (日本産業推進機構)	買収提案を準備・提示	2026年7月31日、牧野取締役会が拒否 買収資金の確実性、資本構成、外国共同出資者を含む規制承認の不確実性が主因

近年の環境変化



劇変する内外環境

グローバルにおける地政学変化、資本市場からの直接的なアプローチ、そして最先端技術の融合により、マザーマシン産業を取り巻くゲームのルールは根本から変わりつつあります。

資本市場との対峙

買収提案によるガバナンスと株主対話の変革

度重なるTOB提案や買収提案への対応を経て、透明性の高いガバナンス体制の構築と、企業価値最大化に向けた市場との緊密な向き合い方が問われています。

ハイエンド需要の急増

半導体・航空宇宙分野における高精度加工

グローバルな半導体サプライチェーンの再構築と民間航空宇宙産業の復活に伴い、極限のミクロン精度を誇る5軸加工機への需要が急速に拡大しています。

次世代技術のフロンティア

フィジカルAIがもたらす自律加工の可能性

現実世界を認識・制御するフィジカル AIとの融合により、熟練工の暗黙知をシステム化。自律的な最適経路生成や自動学習が工作機械を次の次元へ導きます。

工作機械におけるフィジカル AIの可能性

熟練者不足の壁を AIが解消し、高性能マシニングセンタの導入を劇的に加速する

AIが導く自律加工の未来

工作機械の導入において、最大のボトルネックは「**熟練プログラマーの不足**」と「**高度な使いこなしの難しさ**」でした。

フィジカルAIが段取り設計や加工パス生成を自律化することで、この障壁を根本から解消。あらゆる製造現場が、即座に超精密マシニングセンタの真価を引き出せる時代へ移行します。

従来の課題

熟練者依存のプログラミングと操作難易度

5軸加工機などの高性能機は、複雑な NCプログラムの作成や干渉回避、工具選定に高度な熟練技術が必要であり、導入の大きなハードルとなっていました。

AIによる解決

プログラミング・段取り設計の自律化

フィジカルAIと先進CAMの融合により、最適な加工経路、工具選定、段取り設計をシステムが自動生成。知識や経験が浅くとも、安全かつ最適な加工が可能になります。

もたらされる成果

高性能マシニングセンタの顧客層拡大

運用の難易度が劇的に下がることで、中小企業を含む幅広い顧客層で 5軸機や複合加工機の導入が進み、サプライチェーン全体の生産性が底上げされます。

投資仮説：AI進化による顧客層の拡大と高収益化

AIは牧野の価値を代替するのではなく、高性能機の導入障壁を下げて市場を拡大する

STEP 01

AI・CAMの進化と技術的障壁の解消

5軸加工プログラム、干渉回避、工具選定、段取り設計の自動化・支援技術が進化。これまで導入の最大ボトルネックであった「**熟練プログラマー不足**」が解消され、運用の難易度が劇的に下がります。

STEP 02

自動化セル需要とターンキー案件の増加

障壁の低下に伴い、顧客が5軸機・ロボット・パレット搬送などの自動化システムを導入しやすくなります。これに伴い、設計から立ち上げまでを一括で請け負う「**ターンキー案件**」の需要が急速に増加します。

STEP 03

収益性と継続性の向上

高単価・高利益率な5軸機や自動化セルの販売比率が上昇。一括導入によるソリューション提供を通じて、牧野の**製品単価、利益率、そして保守サービスを軸とした顧客継続性**が総合的に高まります。

競合比較

主要工作機械メーカー 3社の強み・特徴比較

比較軸	牧野フライス製作所	DMG森精機	オークマ
5軸・高精度加工	強い。金型、精密部品、半導体装置部品などが主戦場	強い。5軸、複合加工、工程集約の製品群が広い	強い。5軸・複合加工、熱変位を含む精度安定に強み
自動化	パレット搬送、ロボット、工程設計を含む提案	PH Cell、AMRなどを含む自動化ラインが厚い	ARMROID、smaTwinCELLなど、ロボットセルの扱いやすさを重視
CAM・プログラム 支援	FFCAM、干渉回避、工具姿勢・工具利用管理	CELOS、Technology Cycles、Visual Programming、CAM～NC連携	OSP-P500、加工ナビ、デジタルツイン、対話型操作
データ・保全	iKnowledge、MAS-3i、MAS-NX	CELOS X、Condition Agent、予知保全	OSP-AI、機械情報監視、デジタルツイン
ターンキー案件	高精度・用途特化型で強い	グローバルな総合提案力が強い	制御・精度・自動化の一体提案が強い
フィジカル AIとの距離	高精度な「実行装置」	工場全体をつなぐ「デジタル製造基盤」	機械制御まで握る「自律加工セル」

競合比較

主要工作機械メーカー 3社の主要財務指標・経営効率比較

会社	売上高	営業利益率	ROE	ROIC	PER	PBR
牧野フライス製作所 (2026年3月期)	2,611.8億円 (+11.5%)	9.1% (+1.8pt)	8.6%	7.7%	15.9倍	1.31倍
DMG森精機 (2025年12月期)	5,149.8億円 (-4.8%)	3.1% (-4.3pt)	6.7%	2.5%	27.3倍	1.20倍
オークマ (2026年3月期)	2,358.9億円 (+14.1%)	6.3% (-0.4pt)	5.3%	5.1%	14.4倍	1.14倍

※ PER・PBRは2026年8月21日時点

論点

Key Discussion Points

今後の持続的な成長ポテンシャルと、クリアすべき不確実性・リスクに関する主要な問い。

01

需要の持続性(サイクル局面の評価)

足下の需要拡大はいつまで継続するか(工作機械特有のボラティリティへの懸念)

02

AI技術の有効活用とマネタイズ

フィジカルAI等の先端ソリューションを、他社に先駆けて収益化できるか

03

ガバナンスと経営の緊張感維持

外為法による買収防衛を経て、組織に「緩み」が生じるリスクはないか

04

競争環境の変化とプラットフォーム化

AIの社会実装に伴い、他社に業界全体の覇権を握られる懸念はないか

05

バリュエーションの妥当性評価

株価が2年で約3倍に急騰する中、投資判断における高値掴みのリスク